

## スペイン語

高垣 敏博

(1) 私は(自分の) 弟を立たせた。

スペイン語の強制使役には動詞 *hacer* 「させる」を用いる。使役構文は<主語+hacer+不定詞+目的語>が基本で不定詞と後続の目的語(a は直接・間接目的語のマーカー)がいわば「意味上の述語+意味上の主語」の関係をなす。不定詞が自動詞のときには目的語は対格、他動詞のときは与格をとるのが標準的。したがって、(1a)の文の目的語 *a mi hermano* は(1b)では男性対格 *lo* となる<sup>1</sup>。また女性の直接目的語では(1c)のように女性対格の *la* をとる。

(1)a. *Hice levantarse a mi hermano.*

(I) made get up "a" my brother.

b. *Lo hice levantarse. (Le hice levantarse)*

him(acc.) (I) made get up

c. *La hice levantarse.*

her(acc.) (I) made get up

さらに、使役構文は不定詞ではなく、接続法の動詞形を述語にする名詞節でも表わすことができる。

(1-1). *Hice que mi hermano se levantara. → Hice que se levantara.*

(I) made that my brother get up(subj.)

(I) made that he got up(subj.)

私が弟を「自分の腕などを使い持ち上げて立たせる」ような場合は、他動詞 *levantar* をそのまま用いる。

(1-2) *Levante a mi hermano.*

(I) raised "a" my brother

(2) 私は(自分の) 弟に歌を歌わせた。

不定詞が他動詞の場合は、間接目的語を意味上の主語としてとる点(1)と異なる。(2a)の *a mi hermano* は間接目的語で、(2b)のように代名詞化すると間接目的語 *le* をとる。間接目的語は女性も同じく *le* になる。

(2)a. *Hice cantar una canción a mi hermano.*

(I) made sing a song "a" my brother

<sup>1</sup>マドリードを含むイベリア半島中央部~北西部方言では、男性対格 *lo* が与格 *le* に代替する傾向があるので(1b)の( )内に示した。

b. Le hice cantar una canción.

him (dat.) (I) made sing a song

名詞節で表わす方法もあり，(1)と同じような形式になる。従属節内が他動詞＋直接目的語となる点(1d)と異なる。

(2-1) Hice que mi hermano cantara una canción.

(I) made that my brother sang(subj.) a song.

(3a) 《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた。

(1)(2)と同じ hacer を用いる。

(3-1)a La madre hizo ir a comprar pan a su hijo aunque quiere jugar.

The mother made go to buy bread "a" her son though (he) wants (to) play

b. La madre lo hizo ir a comprar pan.<sup>2</sup>

The mother him (acc. ) made go to buy bread

(3b) 《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた。

許可使役は dejar(= to let)を用いる。make に対する let の関係と類似する。

(3-2) a.Dejé salir a jugar a mi hijo.

(I) let go out to play "a" my son.

b. Lo dejé salir a jugar.

him(acc.) (I) let go out to play

(3-1)(3-2)ともに動詞が接続法をとる名詞節で表わす方法もあることは(1)(2)と同じである。

c. Dejé que mi hijo saliera a jugar.

(I) let that my son went out(subj.) to play

(4a) 私は弟に服を着せた。

他動詞 vestir 「着せる」を用いて主語が直接手を下して着せることを含意する。

Vestí a mi hermano.

(I) dressed "a" my brother(acc.)

(4b) 私は弟にその服を着させた。

自動詞「着る」そのものがまず他動詞 vestir 「着せる」から派生する再帰形 vestirse を用いる。言語による命令など，間接的な行為であることを排他的に含意する。

---

<sup>2</sup> (3-1b)の対格 lo はマドリードなどの方言では与格 le ととることが多い。

(1)(2)で見た強制使役動詞 *hacer* を用いて使役構文にする。直接目的語を代名詞は(b)のように対格 *lo* (マドリードでは与格 *le*) になる。

(4) a. *Hice vestirse a mi hermano.*

(I) made get dressed "a" my brother

b. *Lo (Le) hice vestirse.*

him(acc./dat.) (I) made get dressed

この場合には、言語などによる指示に弟が自主的に従うものである。

(5) 私は弟にその本をあげた。

スペイン語には「やりもらい」の特別な形式はない。3項動詞 *dar*(= to give)を用いる。間接目的語の *mi hermano* を代名詞化すると与格 *le*(男女同形)となり動詞の直前に置かれる。

(5)a. *Di el libro a mi hermano.*

(I) gave the book to my brother

b. *Le di el libro.*

him(dat.) (I) gave the book

二つの目的語は基本的には「直接目的語+間接目的語」の語順になるが固定されたものではない。

(6a) 私は弟に本を読んであげた。

スペイン語ではやりもらいの形式はないが、恩恵・利害を表す与格 *le* が存在する(心性与格 *dativo ético*, 利害の与格 *dativo de interés* などと呼ばれる)。ただしこのような与格の使用法については明示的な規則を示すことは困難であるとされる。(6-1)は弟を間接目的語(代名詞は与格 *le*)にし、名詞句 *a mi hermano* と重複使用されている。一般的に3項動詞の場合は重複使用が行われたときに特別に利益の含意は微妙である。

(6-1) *Le leí el libro a mi hermano.*

Him(dat.) (I) read the book "a" my brother(dat.)

(6b) 兄は私に本を読んでくれた。

[[やりもらい・授恩恵・逆向]。(6a)と同じ動詞による同じ表現になる言語も多いと思われるが、それを確認することも重要だろう。]

(6-1)と反対の関係である。代名詞 *me* は「私に/私のために」かその意味は微妙である。

(6-2) *Mi hermano me leyó el libro.*

my brother (to) me read the book

(6c) 私は母に髪の毛を切ってもらった。

[[やりもらい・受恩恵]. モンゴル語や朝鮮語など, ここで使役表現が用いられる言語も多く存在するものと思われる.]

「もらう」に相当する表現を欠く。母が私の髪を切るというように主客を変えて表わす。

(6-3)a. Mi madre me cortó el pelo.

my mother (to) me cut the hair

b. \*Mi madre cortó mi pelo.

my mother cut my hair

スペイン語独特の表現として, 身体部位に対して何かの行為を行う表現では, 間接目的語 *le* でまず被利益者を表現し, 直接目的語である身体部位に定冠詞前置して *el pelo* (the hair) とする。所有形容詞を用い *mi pelo* (= my hair) とすることはできない。

(7a) 《風などで》ドアが開いた。

スペイン語は他動詞優勢言語 (他のロマンス語も同様) であり, その再帰形により自動詞を形成することが一般的である (他動詞 *abrir* 「開ける」→再帰形 (Reflex..) *abrirse* 「開く」)。

「風で自然にドアが開く」ような場合も(7-1)のように *abrirse* が用いられる(SEは再帰代名詞の略)。

(7-1) La puerta se abrió ( con el viento).

the door SE(reflex pron.) opened (with the wind)

(7b) 入口のドアが開けられた。

(7-2)a. La puerta fue abierta (por X).

the door was opened (by X)

b. La puerta se abrió (\*por X).

the door SE(refl.) opened (\*by X)

スペイン語には二つの受動形式がある。英語の受動文に似た形式が(7-2a)で, <X+他動詞+Y>(X abrió la puerta)が(7-2a)<Y+コピュラ *ser*+過去分詞+*por* 動作主>に態変換する。

もう一つは再帰文を用いた(7-2b)で再帰代名詞 *se* を伴う動詞 *abrió* が主語 *la puerta* に一致している。この形式は3人称 (単数・複数形) の事物が主語となり, 一般に動作主句 *por X* は明示できないという制限をもつ。形式だけ見ると(7-1)の自発の再帰文と区別が難しい。

(8a) 私は手を洗った。

[[再帰・1人称]. ロシア語のように, もはや人称によって再帰代名詞由来の部分は変化しなくなっている言語もあるだろう。古典語であれば中動相が用いられる表現.]

典型的に再帰文を用いるケースである。(6c)で見たように、スペイン語では身体部位に対して加えられる動作は動作を受ける主体を間接目的語(=与格)で、部位を定冠詞つき名詞句で表わす。これが自分の身体の動作になると、再帰形になる(与格 *le* は再帰代名詞 *se* になる)。

(8-1) *Me lavo las manos.*

ME(reflex.) (I) wash the hands

(8b) 彼は(／その人は)手を洗った。

(8-2)と同じ形式で人称が変わるだけである。

(8-2) *Se lava las manos.*

SE(reflex.) (he) washes the hands

(9) 彼は自分(のほう)が勝つと思った。

[[引用文中の再帰]. 「自分を勝つと思った」のように対格が出る言語の存在も予想される.]

英語と基本的には同じである。スペイン語では文脈で既出の主語代名詞は省略するのが普通であるので(9a)では従属文中の「自分」(*él*)を省略する(「彼」(*él*)を明示すると主文主語と異なる「彼」と誤解される可能性が出てくる)。強調したい場合には(9b)のように主語代名詞 *él* に *mismo* (=oneself) などを補って用いる。

(9)a. *Él pensó que (él) ganaría.*

he thought that (he) would-win

b. *Él pensó que él mismo ganaría.*

he thought that he himself would win

(10) 彼らは(／その人たちは)(互いに)殴り合っていた。

相互再帰は再帰文で表わす。

(10) *Ellos se pegaron.*

They SE(reflex.) hit

(11) その人たちは《みな一緒に》町へ出発した。

スペイン語には該当する形式はない。*juntos*(=together)のような副詞表現を添える。

(11) *Ellos fueron juntos al pueblo.*

They went together to the town

(12) その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう).

llorar 「泣く」を自発表現にすることは難しい。しかし、「涙が自然に流れ出る」という意味の再帰形を用いて表現することは可能かもしれない。Saltar そのものは「飛び出す」という自動である。自動詞に再帰代名詞 se を添えると、完了的意味が付加されると言われる。

(12) Se le saltaron las lágrimas.

SE(reflex.) him(dat.) jumped out the tears

「涙」が主語、saltar は「飛び出す」という自動詞で再帰文を用いることにより非意図的過失の表現が生まれる。与格 le は、泣いてしまう当事者を表す。

(13a) 私は卵を割った。

他動詞 cascar 「」を用いて主語の意志を表す。

(13-1) Casqué un huevo

(I) cracked an egg

(13b) 《うっかり落として》私はコップを割った (／割ってしまった)。

(12)と同様に、非意図的な行為を再帰文で表わす。「自分の意志に反して、コップが割れた」はコップを主語とし、自動詞 caer に再帰代名詞 se を添えることにより完了性を付与、さらに与格 me) を挿入して、その行為への参与者 (しかしここでは被害者の意味をもつ) を表す表現。

(13-2) Se me rompió el vaso.

SE(reflex.) (to) me broke the glass

この他、コップを落とした(se me cayó el vaso), 脚を骨折した(se me rompió la pierna), 鍵をなくした(se me perdió la llave), 日付を度忘れした(se me olvidó la fecha), など再帰文を用いた非意図的過失を表す表現がひろく用いられる。

(14a) きとう私はコーヒーを飲みすぎて眠れなかった。

特に対応形式はない。英語の so...that.. に対応するような tanto... que...を用いる。

(14-1) Anoche tomé tanto café que no pude pegar ojo.

last night (I) took so much coffee that (I) could not sleep

(14b) きとう私は仕事がたくさんあって眠れなかった。

(14-1)に同じ。

(14-2) Ayer tuve tanto trabajo que no pude pegar ojo.

Yesterday (I) had so much work that I could not sleep

(15) 私は頭が痛い。

スペイン語では「痛む」(doler)という自動詞で身体部位(la cabeza)を主語にし、「痛み」を感じる当事者「私」を間接目的語にする。当事者を与格(me), 原因を主語にするスペイン語では一般的な表現のひとつである。

(15) Me duele la cabeza.

(to) me(dat.) hurts the head

(16) あの女性は髪が長い。

品質形容詞はふつう名詞に後置する。この例も一般的な「名詞+形容詞」の語順で表現される。

(16) a. La chica tiene el pelo largo.

the girl has the hair long

b. La chica tiene los ojos azules.

the girl has the eyes blue

(17) 彼は彼の肩を叩いた。

ポンポンと軽く叩くという場合(a)のように dar golpecitos en...を用いるが、被動者に影響が及ぶほど「叩く」の意味では(b)のようにまず被動者を直接目的語、力が及ぶ場所を前置詞 en に導かれた身体部位名詞で分けて表す方法もある。

(17)a. Él le dio golpecitos en el hombro.

He him(dat.) gave little knocks on the shoulder[= tapped on the shoulder]

b. Él lo golpeó en el hombro (en la cabeza).

He hit him(acc.) on the shoulder (on the head)

(b)では「彼を」が対格代名詞 lo で表わされ、叩かれる部分は「前置詞 en+肩（あるいは頭）」の組み合わせになっている。

(18) 私は彼がやって来るのを見た。

スペイン語の知覚構文は(1)~(3)で見た使役構文と同じパターンをとる。"ver+不定詞+目的語"で不定詞が意味上の述語、目的語が意味上の主語の関係になる。不定詞が自動詞の場合は直接目的語をとる。(18a)の目的語を代名詞化すると(18b)のように対格 lo になり、(18c)の他動詞の場合には(18d)からわかるように与格 le になる。

(18)a. Vi venir al señor.

(I) saw come "a" the man

b. Lo vi venir.

him(acc.) (I) saw come

c. Vi tocar el piano al señor.

(I) saw play the piano "a" the man

d. Le vi tocar el piano.

him(dat.) (I) saw play the piano

(19a) 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。

一般的には部分を意識せずに(19-1a)のように無冠詞にする。

(19-1)a. Bebí agua.

(I) drank water

b. Bebí de esa agua.

(I) drank "de" (partitive) that water

Butt & Benjamin (2000, §3.2.8)によると、フランスとイタリア語と同じような方法で *de* や *di* をつかうことはない (Il a des roses rouges / a delle rose rosse)。しかし、指示形容詞に *de* を前置詞し、部分を表す用法があると述べ、つぎの対比を示している。

(19-2)a. Tráenos *de ese* vino tan bueno que nos serviste ayer.

Bring us some of that really good wine you served us yesterday

b. Tráenos ese vino tan bueno que nos serviste ayer.

Bring us that really good wine you served us yesterday

(19-1b)の”*de ese*”がこのように部分を表していることになる。

(19b) 私は（コップの）水を全部飲んだ。

定冠詞で表現するが、特に「全部」を指すわけではない。

(19-2)a. Bebí el agua.

(I) drank the water

スペイン語には再帰表現で、飲食(*comer, beber*)のような消費動詞で、飲食物をすべて消費したときに動詞に再帰代名詞 *SE* を付けて完了性を表すことができる。

b. Me bebí la botella de vino.

ME(reflex.) (I) drank the bottle of wine

c. Me comí una paella.

ME(reflex.) (I) ate a paella

(20) あの人は肉を食べない。

特別な表現はなく、単純に無冠詞の名詞 *carne* 「肉」を用いる。

(20) La chica no come carne.

the girl not eats meat